

高校 × 地域

安来市長
田中 武夫

高校魅力化推進員
山根 久美子

安来高等学校校長
柳樂 眞悟

情報科学高等学校校長
渡邊 勝義



高校とまちが一つのチームに



地域社会のあちらこちらから聞こえる担い手不足の声。市内2つの県立高校では、地域に根ざした生きる力を育む島根県「県立高校魅力化ビジョン」を柱に、地域人材の育成を目指して新たな取り組みが始まりました。生徒たちに生きがいを持って暮らせる地域像を描いてもらうため、今、高校・地域・行政のスクラムが求められています。

新春座談会では両校の校長と、高校と地域をつなぐ高校魅力化推進員を招き、高校の魅力化に向けた取り組みや、学校と地域が共に描く未来などを語り合ってもらいました。

切れ目のない
ふるさと教育を高校で

田中市長（以下、市長） 県では令和3年度中に島根県内全ての県立高校に「高校魅力化コンソーシアム（高校と地域の協働体制）（以下、コンソーシアム）」の構築を推進しています。市としてもその後押しをするため、令和3年10月に高校魅力化推進員（以下、推進員）として山根さんに就任いただきました。両校の令和3年はどんな1年でしたか。

柳樂眞悟校長（以下、柳樂）

安来高校では地域に開かれた教育課程の一環である「総合的な探究の時間」などを使い、地域へ出る機会が少しずつ増えた1年だったと感じています。

渡邊勝義校長（以下、渡邊）

情報科学高校は地域社会と協働する推進力が生まれた年だったと思っています。

市長 地域とのつながりが強化されつつありますね。山根さん、推進員を引き受けていただきありがとうございます。

山根久美子（以下、山根） お

話をいただいたときは十神交流センターに勤めて5年目。交流センターでは、小中学生が活躍できる場づくりを自分の目標として活動してきました。令和3





「デジタル教育」と 「地域社会」の融合で 地域に貢献する高校へ

年度には高校生を巻き込んだイベントができたらと、ひそかに考えていたところでした。

市長 そのような考えをお持ちだったとは、まさに運命ですね。初めて山根さんにお会いしたのは十神地区の交流イベントでしたね。そのときに地域の人たちをまとめる姿を見て、すごい人があるなあと感心したのを覚えています。

山根 ありがとうございます。10月に推進員に就任してから、毎日ドキドキワクワクしながら、両校に通わせてもらっています。少しでも生徒さんや学校の力に

なれるようにまた、そのことで安来市のためになればと思っています。

市長 推進員が配置されたことで、両校はどのように変わりましたか。

渡邊 生徒が地域の大人たちと触れ合う機会が増えましたね。さまざまな場面で教員と共にアイデアをお互いに出しながら、新しい風を吹き込んでもらっています。今までつながりのあった関係機関などとの接点が多いいパイプになってきたと思っています。そうしたパイプを今後も、太くしていかさを持つたものにしていきたいと考えています。

渡邊 勝義 かつよし

情報科学高校校長。「(Act Locally Thinking Globally) 学校での学びを地域社会で生かし、思いは世界へ」を合言葉に、課題解決できる人材の育成を目指している。令和3年4月に同校第15代校長として着任。

柳楽 眞悟 なぎら

令和2年4月に安来高校第24代校長として着任。同校には平成10～16年にも在籍し、野球部の顧問などを歴任。「きびしく自ら律し、目標と信念を高く持ち、美しく豊かに生きる」それを追求できる生徒像を描く。

中学校と連携した
キャリア教育にも
力をいれていきたい



地域愛・郷土愛 を育める 教育環境に



田中 武夫

安来市長として1期目。市役所の内外を問わずさまざまな世代の人との対話の場を持つようにしている。「次の世代につなげる安来市」を目指して、対話で生まれた意見を取り入れながら、まちづくりを進めている。

柳楽 高校の教員はどうしても地元出身者が少ないため、地域へ出向くのをためらっていました。そんな中、推進員に背中を押してもらったことで、アイデアを持つている教員が一緒になって「総合的な探究の時間」を使い、地域課題の解決に向けた取り組みに向き合うようになりました。

市長 それはとてもうれしい傾向ですね。地域との関わりといえば、小・中学校で実施する「ふるさと教育」があります。しかし高校に上がると、どうしても途切れてしまいます。せっかく義務教育で培った「地域に対する思い」が高校3年間でリセットされてしまいう。切れ目なく継続できる形で、地域の課題を題材にして行う「地域課題解決型学習」を推進員とともに各高校で力を入れる必要があると考えています。

地域との関わりで 地域愛・郷土愛を

市長 コンソーシアムをつくることで、学校として今後どんな未来を描いていきたいですか。

柳楽 安来高校ではコンソーシアムの設立に向け準備を進めています。令和4年の年初めには立ち上げる

山根 久美子

高校と地域が行う協働活動をプロデュースする「運営マネージャー」と、地域側としてさまざまな調整を行う「魅力化コーディネーター」の二足のわらじを担う高校魅力化推進員。家では子育て真っ最中の3児の母。

旗振り役となって 地域の大人を巻き込み 高校をバックアップ



予定としています。令和3年9月に行った1年生の「総合的な探究の時間」では、安来節演芸館に協力いただいて、教員ではない大人の意見、価値観を知る経験となりました。また、今後は中学校と連携したキャリア教育にも力を入れたいと思っています。

渡邊 情報科学高校は、コンソーシアムを設立して2年目になります。安来のまちをまちごととキャンパスととらえ、地域貢献高校を目指していきたいと考えています。学校がさまざまな視点を持ち、地域貢献の役割を果たすということは、学校を生かすことであり、生かされることになると考えています。本校の特色は「デジタル教育」と「地域社会」の融合です。相互にうまく融合することで小さな変化が生まれ、成長や変化につながると信じています。

市長 行政としても両校に対して、地域に根差す人材を育成して欲しいと願っています。そのためにも、山根さんには橋渡し役となつていただくことを期待しています。両校で行う教育の中で、安来のことを中心に考える時間を作ってください、生徒に安来の魅力を伝えていただき

たいですね。

ハード面では安来市には県立高校の寮がありませんので、市外からも安心して入学できるよう、市としてサポートしていきたいと考えています。その生徒たちが安来の魅力に触れることで、交流人口から定住人口にな

島根県立安来高等学校

令和2年に創立120周年を迎えた歴史ある普通科高校。「きびしく・高く・美しく」を教育目標にかかげ、「時代の青年を育成する」ことを目指している。生徒の多くが部活動に精力的に取り組み、文化部・運動部ともに成果をあげている。コンソーシアムを今年度中に設立予定。全生徒数429人。

ることを期待しています。

山根 さきほど市長が言われたふるさと教育。高校生になると、そのふるさと教育がなくなるので、せっかく小中学校で育まれた安来愛を継続できるようにしていきたいと思います。高校でも地域の大人たちをたくさ

ん巻き込んで、生徒たちに良い刺激を与えられるように継続していくべきだと思います。少しずつではありますが、両校に地域の人たちが授業に入ったり、ボランティア活動で一緒に子どもたちと活動したりしています。子どもたちはその大人た

島根県立情報科学高等学校

昭和62年に設立。マルチメディア科・情報システム科・情報処理科の3コースがあり、IT関連の専門的な教育を受けることができる専門高校。ITを生かして、市内産業の活性化や地域社会の形成に貢献している。令和2年度にコンソーシアムを立ち上げる。全生徒数278人。

ちに影響されて、地域に関心をもちやすくなっていると感じます。そのことで、大人と一緒に学んだことをもっと知りたくなくなるし、活動したことをもっとやりたくなります。

市長 高校の授業時間数は限られていると思いますが、両校に

は進学等で地元を出ても将来帰ってきてもらえるように、地域とつながる時間をつくつてもらえ、地域愛・郷土愛を育んでもらえるとうれしいですね。

渡邊 そうですね。進学等で出てしまうと地元への関心が薄れてしまうので、今後も地域の文化や産業に触れられる時間を作っていきたいと思っています。今後も地域との橋渡しを山根さん、よろしく願います。

山根 分かりました。微力ながらがんばります。地域とのつながりは生徒たちにとって、いい刺激になっていきます。と同時に、地域の人たちにも変化がありました。普段、高校生と関わる機会があまり無い地域の人たちが、高校の中に入り生徒と一緒に何かを作ったり、話をしたりすることで喜びを感じています。高校が核となって、安来を盛り上げられるように、また面白いことが始められるように私が火付け役になり、いい意味での、「のぼせもん」を増やしていきたいと思っています。

地域の大人との

関わりで生徒が成長

市長 両校の目指すべき生徒像とはどんなものでしょうか。

渡邊 目の前の子どもたちに将





▲安来節演芸館の来場者を増やそうと、安来高校の生徒がプランを考案。冊子にして支配人へ手渡しました。



▲情報科学高校は、ソフトバンク株式会社が開発したA I試験教材の特別協力校として選ばれています。

来バトンを渡していくという視
点をもつことが大切だと思いま
す。ふるさと安来を思うことが
できる人間味のあるクリエイイ
ティブリーダー（小さな変化を
起こせる人）、アクション（前
に踏み出す力）、シンキング（考
え抜く力）、チームワーク（チー
ムで働く力）を持てる生徒を育
てていきたいと思っています。
市長 先日、イエローバスが
パッケージとなったスイーツを
開発をされましたね。

渡邊 はい。3年生の課題研究
で、産学金の3者連携で商品を
開発させていただきました（関
連記事・13ページに掲載）。生
徒の学びや地域社会とのつなが
りを形として示すことができま
した。これは生徒のアイデアを
採用して、地元の企業と生徒が
粘り強く対話を重ね、それぞれ
の強みを生かして、一緒に知恵
を出してもらいながら、協働し
て生まれたものであったと思っ
ています。
柳楽 安来高校は普通科高校と
いうことで、なかなか特色を出
しにくい部分があります。しか
し、山根さんにお越しいただい
てから、いろいろな地域の人に
つながりいただきました。いま
で高校生は友だちや教員といっ
た縦横の関係しかありませんで
したが、地域で仕事をしている
人など、斜めの関係性が生まれ

ました。これから進学したり、
社会に出たりしたときに、臆す
ることなく大人と対等に自分の
意見を述べ、そして人からの意
見もきちんと聞ける生徒に育っ
てくれるといいなと思っています
す。将来的には地元に戻ってき
て、地域を活性化してくれると
うれしいですね。
市長 地域とのつながりで、さ
らに生徒が成長することは行政
としてもうれしく思います。山
根さんは推進員として数カ月が
経ちましたが、慣れましたか。
山根 両校にお邪魔するようにな
り、仲間に入れてもらえたよ
うな感じです。一番うれしかっ
たのは、先生からお話を持つて
きてもらえるようになったこと
です。こういう事業をしたいけ



▲両校ではさまざまな分野で活躍する大人を講師に迎え、「職業人講話」を開催しています。写真は安来高校（上）、情報科学高校（下）の様子。

ど、どうしたらいいかとか。話
が弾むと、いろいろな宿題をい
ただけるのもうれしいですよ。
でも、難しい宿題もたまにあり
ますけど（笑）。
市長 家庭も大事だから無理せ
ずにやってくださいね。皆さん
が言われるように地域とのつな
がり的大事だと、あらためて感
じました。今後も応援してくれ
る地域の大人たちが増えると良
いですね。私がいつも言うの
は、安来をつくるのは地域に暮
らす皆さんです。行政主体でな
く、皆さんと協働してつくって
いかないと地域の発展はないと
思っています。私も生徒たちに
安来の良さを感じてもらえるよ
うに、まちづくりに努めていき
ます。